

# Cisco Intersight 管理モード移行ツールのリリースノート

初版：2021年12月8日

## Cisco Intersight マネージドモード移行ツール

Cisco Intersight マネージドモード (IMM) 移行ツール、リリース 2.0 は、既存の Cisco UCS Manager (UCSM) および Cisco UCS Central インフラストラクチャの構成属性を複製し、既存のサービスプロファイルテンプレートを IMM サーバープロファイルテンプレートに変換して IMM で新しいサーバーの展開を加速することにより、新しい IMM 展開をブートストラップするのに役立ちます。

### マニュアルの変更履歴

リリース	日付	説明
2.0(1)	2022年5月31日	リリース 2.0.1 向けリリースノートを作成。
1.0.2	2022年2月3日	リリース 1.0.2 向けリリースノートを作成。
1.0.1	2021年12月8日	リリース 1.0.1 向けリリースノートを作成。

### 新機能

#### リリース 2.0.1 の新機能

IMM 移行ツール リリース 2.0.1 には、バグ修正と次の新機能のリストが含まれています。

- Cisco UCS Central のサポート

IMM 移行ツール、リリース 2.0.1 は、UCS Central から Intersight へのサービスプロファイルテンプレートの変換をサポートします。

- 移行設定の選択

移行オプションを設定/設定解除し、移行の動作を制御できます。

- サービスプロファイル/テンプレートに基づく選択的変換

変換するサービスプロファイルまたはテンプレートを選擇できます。それらのプロファイル/テンプレートにアタッチされているポリシーのみが変換されます。

- **移行のクローニング**

進行中でない移行は、複製および編集してレポートを生成し、Intersight にプッシュすることができます。

- **履歴移行とレポートの可用性**

どの構成のレポートも、1 回のみ生成できます。これにより、移行の履歴やレポートを参照できます。

- **既存の Intersight オブジェクトのデフォルトの上書きはありません**

デフォルトでは、既存の Intersight オブジェクトは変換中に上書きされません。これにより、Intersight ポリシーに加えられた変更が変換されたオブジェクトによって上書きされることがなくなり、サービスプロファイルテンプレート全体の共通ポリシーが 1 回だけ変換されます。

- **以下のような特定のポリシーの変換**

- 特定のブート ポリシー
- 特定のダイナミック vNIC 接続ポリシー
- 特定のシリアル over LAN ポリシー
- 特定のローカル ディスク構成ポリシー
- 特定の vMedia ポリシー

## リリース 1.0.2 の新機能

IMM 移行ツール リリース 1.0.2 には、バグ修正と次の新機能のリストが含まれています。

- **Device Management**

IMM 移行ツール、リリース 1.0.2 を使用すると、デバイスをより適切に管理できます。UCS システム デバイスまたは Intersight デバイスを追加、編集、および削除できます。一意のターゲット IP/FQDN のみが許可されるため、デバイスの重複が防止されます。

- **アップロード設定**

Intersight にプッシュする前に、UCSM ドメインの変換された構成を手動で編集できます。変換された既存の構成ファイルをダウンロードして編集し、編集したファイルをアップロードする必要があります。アップロードされた構成ファイルが Intersight にプッシュされます。

- **セキュリティの拡張**

IMM 移行ツール リリース 1.0.2 は、HTTPS サポートの可用性と、非アクティブな状態が 30 分間続くと自動的にセッションがタイムアウトすることにより、セキュリティを強化し

ています。このリリースには、複数のセキュリティ脆弱性に対する修正も含まれていません。

#### • Intersight の新機能の移行サポート

- Ethernet/FC スイッチング モード変換対応
- ストレージ VSAN の変換のサポート
- 4.2(1i) をサポートするための BIOS トークンの更新
- FC ストレージ ポート変換のサポート
- サーバー プール (リソース プール) のサポート
- サービス プロファイル変換時のアウトオブバンド (OOB) IP アドレスのサポート

#### リリース 1.0.1 の新機能

IMM 移行ツール、リリース 1.0.1 には次の機能リストがあります。

- UCS Manager からサービス プロファイル テンプレートと関連するポリシーとプールをインポートします。
- ハードウェア互換性スコア、ファブリック ポリシー構成スコア、およびサーバ ポリシー構成スコアを含む IMM 準備レポートを生成します。
- 変換された構成を Intersight にプッシュします。
- Cisco Intersight フィードバック メカニズムを使用したフィードバック サポート。
- このツールは、有効な Cisco CCO ID を持っている人なら誰でも利用できます。

## アップグレードツール

[\[UCS ツール \(UCS Tools\)\]](#) ページから、最新の IMM 移行ツール .ova ファイルをコンピュータにダウンロードし、OVF テンプレートを展開します。

ツールのインストールの詳細な手順については、[IMM 移行ツールの概要](#)を参照してください。

## 既知の動作と制限事項

現在 IMM 移行ツールには、以下に示すようにいくつかの制限があります。

- サービスプロファイルは、デフォルトでは変換されません。

**[移行設定 (Transition Settings)]** ページで対応するオプションを変更して、サービスプロファイルの変換を有効にすることができます。このような場合、サービスプロファイルのアイデンティティ (IP/IQN/MAC/UUID/WWNN/WWPN) は保持されません。詳細については、「[付録 B : 移行設定](#)」を参照してください。

- ロールベースのアクセス制御機能の変換（ユーザー、ロール、ロケール、組織の権限、LDAP、RADIUS、TACACS）はサポートされていません。
- 変換された組織の数は、Intersight アカウントごとに 50 に制限されており、リソースグループの数は、Intersight アカウントごとに 100 に制限されています。
- 組織とイーサネット/FCQoS ポリシーを組み合わせた長さが 40 文字を超える場合、Intersight での LAN/SAN 接続ポリシーの作成は制限されます。

[移行設定 (Transition Settings)] ページで長い組織名の自動名前変更を有効にして、この問題を回避できます。詳細については、「[付録 B：移行設定](#)」を参照してください。

- 空の WWNN/IQN プールを参照する LAN/SAN 接続ポリシーは、変換時に Intersight にプッシュされない場合があります。

## 関連資料

[Cisco Intersight 管理モード移行ツール ユーザー ガイド、2.0](#)

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。

リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。

あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。